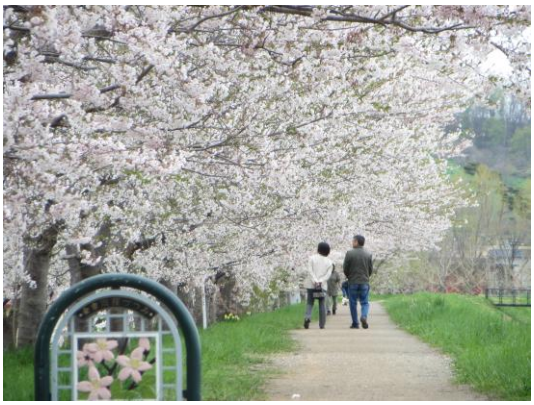
余市町観光振興計画

（平成30年度～平成34年度）

振興テーマ　「よいち魅力発信」



春

夏

秋

冬

余　市　町

目　　次

本　　編

序　章
　１．計画の背景と目的　・・・・・・・・・・１
　２．計画の位置付け　・・・・・・・・・・１
　３．計画の期間　・・・・・・・・・・１
　４．計画策定の基本方針　・・・・・・・・・・２

第１章　余市町観光の現状と課題
　１．余市町観光を取り巻く現状　・・・・・・・・・・３
　２．余市町観光の課題　・・・・・・・・・・４

第２章　余市町観光振興の施策
　１．余市町観光振興のテーマ　・・・・・・・・・・６
　２．余市町観光の資源　・・・・・・・・・・７
　３．余市町観光振興の具体的方策　・・・・・・・・・・９

第３章　余市町観光振興の計画の推進
　１．推進体制　・・・・・・・・・・１６

分析資料編

第１章　観光統計
　１．全国的な観光現況　・・・・・・・・・・１８
　２．北海道の観光現況　・・・・・・・・・・１８
　３．余市町の観光現況　・・・・・・・・・・１９

第２章　余市町の観光資源
　１．余市町の観光資源　・・・・・・・・・・２２
　２．立地環境・交通アクセス　・・・・・・・・・・２６

第３章　第４次余市町総合計画≪観光振興≫
　１．余市町観光振興の基本目標　・・・・・・・・・・２７
　２．余市町観光振興の主要施策の体系　・・・・・・・・・・２７

その他資料編

　１．余市町観光振興計画の策定体制　・・・・・・・・・・２８

本編

序　章

１．計画の背景と目的

本町の観光振興計画は、当初、平成９年度に長期計画として策定されましたが、本町を取り巻く社会経済情勢の変化や多様化する観光ニーズなどへの対応を図る必要があることから、平成２５年度から平成２９年度までの５年間における計画を新たに策定し、この計画を基本として、本町の特色ある観光資源などを活かしながら、観光の活性化と地域経済の振興に結び付けるべく、新たに法人化された観光協会や観光関連団体、観光事業者などとの連携を図りながら各種施策の推進に努めてまいりました。

今回、平成２５年度に策定した余市町観光振興計画から５年が経過しようとしていますが、この間、連続テレビ小説「マッサン」を契機とした観光客の急増やワイン特区をはじめとした６次産業化推進によるワイナリーの増加、また、近年の訪日外国人観光客の増加、さらには、平成３０年度に北海道横断自動車道（余市～小樽間）の開通が予定されているなど、本町の観光を取り巻く環境は大きく変化しています。

本計画は、現在の社会経済情勢を踏まえ、前計画をさらに発展させる新たな計画を策定するものであります。

２．計画の位置付け

本計画は、余市町観光振興条例第５条の規定に基づき計画策定を行うもので、**「第４次余市町総合計画」**における**「まちづくりの基本計画」**中**「観光振興部門」**において掲げている目標の達成に向けた基本計画として位置付けるものであります。

３．計画の期間

目まぐるしく変化する近年の社会経済状況や多様化する観光ニーズに対して柔軟な対応を図る観点から、**平成３０年度を初年度とする平成３４年度までの５年間の計画期間**とし、以後５年毎に社会経済状況等の変化を踏まえた上で適切な計画内容の見直しを行うことを基本とします。

なお、計画期間中であっても大きな社会経済情勢の変化があった場合には、随時柔軟な見直しを図ることとします。

４．計画策定の基本方針

計画の策定にあたっての基本方針は、次のとおりとします。

内容が簡素でわかりやすい計画とします

可能な限り町民の皆さんの意見等を反映させた計画とします

取り組み可能な実効性の高い計画とします

必要に応じ見直しが可能な弾力性のある計画とします

第１章　余市町観光の現状と課題

１．余市町観光を取り巻く現状

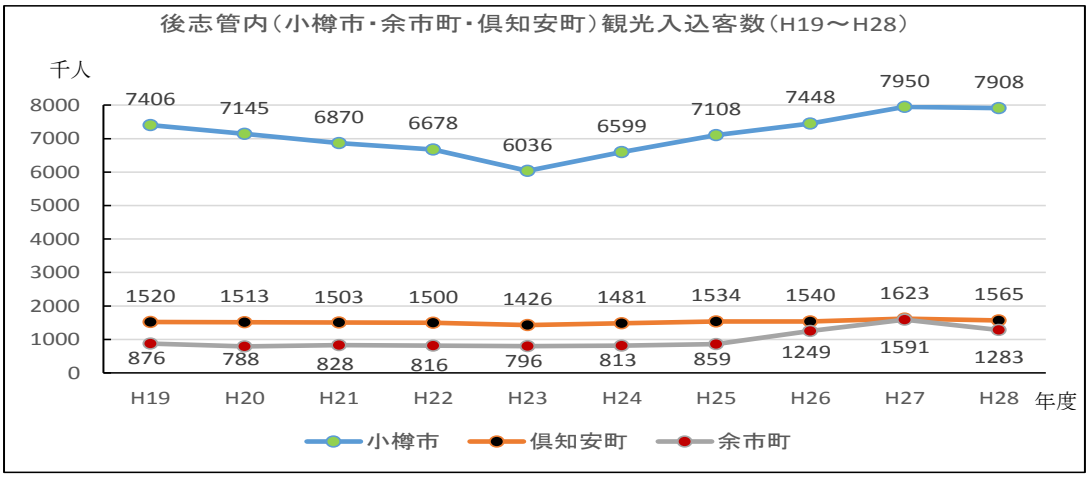
本町の観光入込客数は、平成２５年度まで年８０万人前後で推移していましたが、連続テレビ小説「マッサン」の放送をきっかけに、平成２７年度には、統計開始以降最高の１５９万人の観光客が訪れています。

しかし、観光客の内訳としては、日帰り客の割合が依然として９割以上を占めており、また、シーズン別での入込割合では、５月から１１月までの上半期で約７７％を示すなど、いまだ典型的な日帰り型半年観光となっています。

さらに本町は地理的に見ても、大きな観光資源を抱えている小樽、積丹、ニセコ方面への分岐点ともなっていることから、依然として通過型観光であることも大きな特色となっています。

本町の観光入込客数を観光資源別に見た場合、特定の観光施設への固定化が見られ、平成２８年度においては、ニッカウヰスキー余市蒸溜所が全体入込数の５１％を占めており、依然、本町における中心的な観光集客施設となっている状況です。

マッサンブームによる観光客は一定の落ち着きを見せておりますが、近年のワインブームもあり、ワイナリーを訪れる観光客は増えており、さらには、平成３０年度に北海道横断自動車道（余市～小樽間）が開通することから、交通インフラの整備による観光客のさらなる増加が見込まれます。



２．余市町観光の課題

① 観光資源の掘り起こしと既存資源の活用

本町には多種多様な観光資源が点在し、観光地として魅力を持っていながら、宣伝や付加価値など有効的な活用が不足していました。増加傾向にある外国人観光客にとって、地元では当たり前の光景が新鮮に見えるものもあり、新たな魅力としての観光資源を掘り起こすことや他の観光資源と一体的に活用することで新たな価値を発見し、発信していくことが重要です。

② 体験型観光メニューの開発

現在、本町の体験型観光としては、観光農園での季節ごとの果樹の収穫体験がメインとなっており、農林水産業の１次産業をベースに、２次産業の体験メニューについても、新たな視点での展開が必要であり、協力体制をどのように進めていくのかが重要な課題となっています。

また、既存の観光資源を活用した体験メニューの開発も必要となっています。

③ 観光と食の連携

観光資源は、景観や施設だけでなく、その地域ならではの特徴的な食文化も重要な資源のひとつです。

本町は、四季折々の新鮮な山海の幸に恵まれており、地元素材にこだわった飲食店も少しずつ増えてきていますが、さらに地産地消を進めることで食材の町内調達率向上を図るとともに、オンリーワンのお土産品の開発や地元農水産物を効果的に活用したフードメニュー、スイーツメニュー、さらにはワインをはじめとした果実酒等のドリンクメニューなど、オリジナリティメニューの積極的な研究開発の取り組みについて、飲食店との連携協力を強化することが、魅力ある地域づくりにとって大変重要な課題です。

④ 観光資源の線的、面的整備

現在、本町の観光は、依然ニッカウヰスキー余市蒸溜所一帯や観光農園をはじめとした特定観光施設への依存が高い状況が続いており、これらの施設と他の産業が連動した観光メニューを整備することにより、滞留時間の延長と消費拡大を図ることが重要です。

また、小樽市はもとより、積丹町、古平町、仁木町、赤井川村の北後志地域全体で「見る」「遊ぶ」「学ぶ」「食べる」といった目的別のコースメニュー、或いはこれらを組み合わせたコースメニューの開発も進めることが重要です。

さらに近年、マイカーや外国人によるレンタカーでのドライブ観光客の増加が顕著となっており、その行動範囲も一市町村に留まらず複数の市町村にまたがっていることから、近隣市町村との連携強化が重要です。

⑤ 観光推進体制の整備

観光振興は、いわば観光産業の振興であり、利益を伴う重要な経済活動の一つでもあることから、決して行政だけが主体的にやれば良いというものではなく、関連産業団体組織が主体性を持つことを基本として密接な行政との連携の下に進める必要があります。

そうしたことからも、行政と法人化された観光協会が各経済団体と、より一層の連携強化を図りながら取り組むことが必要です。

⑥ 道の駅の再編整備

道の駅については、従来の休憩施設という位置付けから、道の駅自体が観光目的地としての魅力と機能が求められています。

現在の道の駅は、その機能を十分に発揮できていない状況にあります。また、平成３０年度には、北海道横断自動車道（余市～小樽間）が開通することから、余市インターチェンジから町の中心部に呼び込むための魅力ある道の駅への再編が必要となっています。

第２章　余市町観光振興の施策

１．余市町観光振興のテーマ

「よいち魅力発信」

第１章では、本町観光を取り巻く現状と今後の振興にあたっての主な課題を検討してきました。観光振興計画の策定にあたっては、振興を図るための基本的な方針を定めて取り組む必要があるとともに、観光客の動向や思考を的確に把握する必要があります。前計画の５年間においても、観光産業を取り巻く環境の変化は非常に早く、社会状況の変化に対応するような柔軟な施策の展開が必要不可欠であります。

言うまでもなく、本町には海、山、川に恵まれた素晴らしい自然景観とともに、長い歴史の中で培われてきた他に誇るべき農水産業、そして人と文化があり、前計画において、「よいち魅力再発見」をテーマとして取り組みを進めてきましたが、観光素材をまだまだ十分に活かし切っているとは言えません。

余市町民にとっては当たり前の光景であっても、観光客にとっては新鮮で魅力ある光景になることもあり、改めて「まち」を見ることで、新たな「光」を「観る」ことができるものと考えます。

そうしたことから、余市町の「光」を発信して「観て」もらうことを余市町観光振興の新たな目標に掲げ、前計画の「よいち魅力再発見」から、さらに前進した「よいち魅力発信」を観光振興のテーマをとします。

2．余市町観光の資源

① 自然・景観　　余市川の清流や北限の鮎、ニセコ積丹小樽海岸国定公園に指定されている海岸線等、余市町は豊富な自然の観光資源に恵まれています。
　生産量全道一を誇るワイン醸造用ぶどう畑（ヴィンヤード）、そしてその景観も観光資源の一つとなっています。

② 観光農園等
　町内の観光農園については、年間６万人前後の入込みがあり、観光資源として中心的役割を果たしています。特に、外国人観光客には大変人気があります。また、農家民宿や食事の提供設備を備えているなど、それぞれの観光農園で特徴を出しています。

③ 文化財施設
- 重要文化財：旧下ヨイチ運上家
- 国指定史跡：旧下ヨイチ運上家、旧余市福原漁場、大谷地貝塚、フゴッペ洞窟
- 国登録有形文化財：ニッカウヰスキー余市蒸溜所
- 北海道指定文化財：西崎山環状列石、天内山遺跡出土の遺物
- 町指定文化財：３４件

④ 産業施設　ニッカウヰスキー余市蒸溜所は国の登録有形文化財、北海道遺産に指定されており、現在、余市町最大の観光資源として旅行エージェントの中でもツアーが組み込まれている町内では数少ない施設になっています。
　町内には１０ヵ所のワイナリーがあり、レストラン等を備えたワイナリーも複数あります。
　ワイナリー巡りやワイン関連のイベントなど新たな観光資源として注目されています。

⑤ 特　産　品
・水産物・水産加工品
えび、たら、かれい、いか、鮎、鮭　他
たらこ、数の子、身欠にしん、各種珍味類
・農産物
りんご、なし、ぶどう、さくらんぼ、トマト、イチゴ、プラム、メロン、ブルーベリー、もも、プルーン、梅、コメ　他
・酒造
ウイスキー、ワイン
・菓子
りんごもなか、ウイスキー最中、アップルパイ
・農産加工品
果汁 100%ジュース（りんご、ぶどう、トマト　他）、ジャム　他

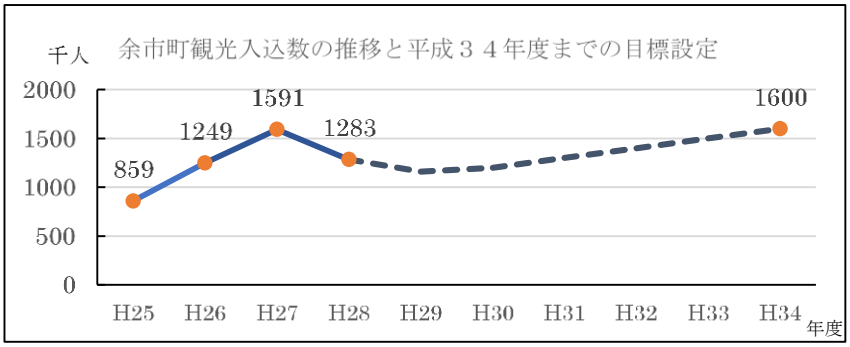
⑥ 温　　泉　町内には、市街地や果樹園、国道沿いに泉質の違う温泉があります。かくれた名湯に出会う楽しみもまた格別です。

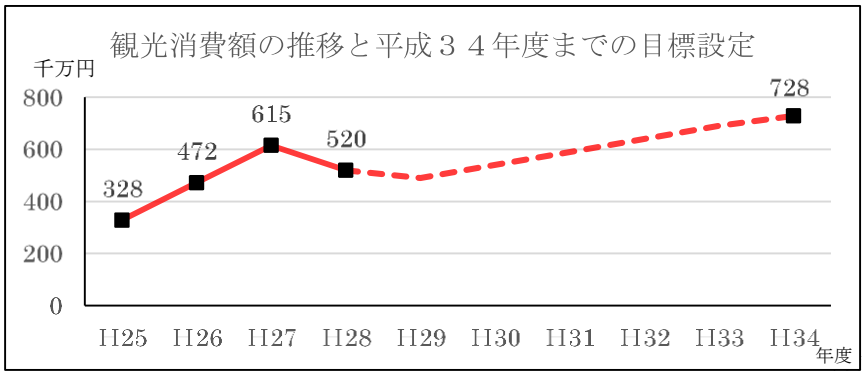
３．余市町観光振興の具体的方策

Ⅰ．目標数値の設定

本町の観光入込客数は、マッサンブームの影響により、平成２７年度において過去最高の１５９万人の観光入込客数を記録しました。
その後、ブームは落ち着きを見せており、平成２８年度においては１２８万人、平成２９年度においては平成２８年度を下回る傾向にあります。
しかしながら、余市町の知名度が全国的に大きくなったことや平成３０年度の北海道横断自動車道（余市～小樽間）の開通を契機に道路利用者の増加が見込まれること、さらにはワインツーリズムや今後の各種観光施策を実施することにより、平成３４年度の観光入込客数の目標については１６０万人に設定し、その達成に向けて余市町の魅力を発掘・発信します。
また、地域への経済的波及効果に繋がる観光消費額についても目標数値を設定します。

指　標	現状値（平成 28 年度）	目標値（平成 34 年度）
観光入込客数	１，２８３千人／年	１，６００千人／年
観光消費額	５２０千万円／年	７２８千万円／年





※観光消費額の算出にあたっては、「北海道観光入込客数調査報告書」のデータ数値を参考に推計

Ⅱ．町内観光基盤の整備

① 観光資源の掘り起こしと既存資源の魅力の再発見

ワイン醸造用ぶどう畑（ヴィンヤード）としては、年々栽培面積が増え、余市の丘陵地帯における新たな景観は観光資源として大きな魅力となり、それらを活用したイベント発掘を進めるなどしてワインツーリズムを推進します。

また、ワインパーティなどのイベントにおいては、全国各地からの参加者が増えていることから、これらのイベントを通して、リピーターの発掘を推進します。

道の駅は、これまでの道路利用者の休憩施設としての役割だけでなく、観光の目的地としてのニーズが大きくなっています。北海道横断自動車道（余市～小樽間）が開通することで多くの観光客が訪れることから、文化、食、情報の発信基地としての機能向上に努め、余市町の観光の核施設、ゲートウェイとなるよう取り組みを進めます。

② 日帰り通過型半年観光と単体観光施設依存型からの脱却

旅行形態が小グループ化の傾向になっていることや本町の観光施設が町内に点在していることから、観光客の目的に見合った観光ルートづくりなど滞留時間の延長につながる仕組みづくりとともに、冬期間の観光閑散期における観光資源の発掘を進めます。

また、本町はウイスキー・ワインといった「お酒のまち」でもあることから、公共交通機関を利用して訪れる観光客に対する二次交通の整備により、町内での周遊を促し、滞留時間の延長、さらには宿泊を助長する取り組みを進めるため、関係機関とも協議を進めます。

③ 体験型観光資源の発掘

本町の体験観光は、観光農園でのフルーツ狩りが主流となっていますが、体験型の観光メニューは、個人観光客や外国人観光客に大変人気があることから、農業体験とともにワインに関係する体験メニューや漁業、水産加工での体験メニューなど、新たな体験型観光資源の発掘を取り進めます。

また、農道離着陸場など既存資源を活用した体験型観光メニューを推進します。

④ 各産業と連動した観光振興

・地元食資源を活かした観光との連携について

余市町の農水産品、加工品等の特産品を総合的に提供できる環境づくりを生産者や各団体と連携し、積極的に推進します。

・生産者と観光事業者の連携を支援するしくみの整備について

生産者（農業者・漁業者など）と観光事業者が連携して参画できるよう環境の整備を進めます。

地場産品を活かした魅力ある土産品づくりなどの取り組みを進めます。

・６次産業の取り組みについて

農業・漁業者が自らの生産物の付加価値を高め、さらに流通販売まで手掛ける６次産業化の推進と観光面との連携を図ります。

道内一のワイン醸造用ぶどうの生産量と併せ北海道初の「ワイン特区」認定をきっかけとしたワイナリーや農家民宿、農園レストランなど新たなワイン産業の形成について連携して推進します。

６次産業化推進と連動した地元生産物等の食資源を活かした新たなメニュー開発など、町内レストラン・食堂等との提携を推進します。

Ⅲ．広域観光の推進

① 広域観光推進の体制充実

北海道観光振興機構、後志観光連盟、北後志観光連絡協議会、小樽・北後志広域インバウンド推進協議会との連携を図り、有効な企画については積極的に参画し、本町の魅力を最大限発信していきます。

② 広域観光への取り組み

今後、北海道横断自動車道（余市～小樽間）開通に伴い、道央圏外からの観光客の増加が予想されます。小樽市や北後志地域を面と捉えた観光を推進することで効果的な取り組みが期待できることから、より一層連携を強化し、宿泊客の増加や滞留時間の延長に結び付くメニューづくりや地域の特色や魅力を発信する取り組みを推進します。

平成30年度 北海道横断自動車道「余市-小樽間」開通予定

北海道横断自動車道「余市-小樽間」が担う観光と生活への役割

平成 30 年度北海道横断自動車道（余市 IC～小樽 JCT）の開通により、景勝地や果実狩りなど豊富な観光資源を有している北しりべしへの所要時間が短縮、アクセス性が向上し、札幌方面などからのお客さまの増加が見込まれます。

また、災害時の代替路の確保や、救急搬送の迅速性・安定性の向上による地域医療環境の改善、農産物・水産品などの物流の効率化など、地域のみなさまの生活や産業への貢献も期待されます。

※「高速で行こう!!」北しりべし地域魅力発信協議会作成パンフレットより抜粋

Ⅳ．観光推進体制の確立

① 観光関連団体との連携強化

平成２６年に余市観光協会が法人化されてからは、行政と観光協会による２元的な業務体制が整理されたことで、行政は観光施策の推進、観光基盤整備や他の関係機関との調整を主に行い、観光協会は観光事業者と一体となり、観光産業の発展に取り組んでいきます。機動性、柔軟性、即応性を発揮できる観光協会を中心とした観光振興を行政がバックアップする推進体制を強化します。

② 歓迎体制の確立

外国人観光客を含め、観光客が町内を散策する光景を目にする機会が多くなってきています。そうした観光客との触れ合いを町全体で「おもてなしの心」で取り組むことが大変重要で、町の印象度アップや余市ファンを作る大きなきっかけとなります。

笑顔と親切な対応は基本中の基本でありますので、観光事業者における研修のみならず、町民による観光ボランティアなど、受け入れ環境の充実に向け、観光に対する町民の理解と役割の意識付けを図ります。

また、外国人観光客は「日本」に触れることを楽しみとしておりますので、町民の積極的な交流を促す取り組みに努めていきます。

③ 民間・行政の役割のあり方

現在の「北海ソーラン祭り」、「味覚の祭典」等の行事については、行政から民間主導の実施体制構築に努めていきます。行政は補完的立場として支援体制の確立を図ります。現在の関係組織をもとに民間団体の参加機会を増やす取り組みを推進します。

さらに、イベントに関わらず、普段から町民が集まって議論できる場の環境づくりを図ります。

ソーシャル・ネットワーキング・サービス（ＳＮＳ）などを活用した観光情報発信を行政や観光協会だけでなく、町民の協力を得て推進します。

Ⅴ．祭り・イベントの開催

① 北海ソーラン祭りにおける参加体験型イベントの拡充

北海道の文化遺産「北海道民謡ソーラン節」の継承普及を図ると共に、本町の産業文化の振興、町民福祉の増進を図ることを基本目的とし、併せて本道と本町の開拓歴史を偲び、愛町の精神の向上と青少年の健全な育成に寄与することを目的として、毎年７月の第１土・日には北海ソーラン祭りが盛大に行われています。近年は、少子高齢化や事業所の減少から模は縮小傾向にあります。

北海ソーラン祭りのメイン行事であるソーラン踊りのオン・パレードは参加者が楽しく踊ることができる仕組みづくりとパレード参加団体の増加を目指します。

② 味覚の祭典の実施

多くの来場者の集客実績があり、農水産物や加工品など、本町の地場産品等のＰＲをより一層拡充し、町の産品の宣伝の場として、生産者、加工者が参加することにより、消費者の動向を把握できる場としても活用していきます。

また、来場者が１日楽しめるイベントとして来場者参加型のイベントについても取り組みを進めるとともに、来場者が「味覚の祭典」で完結することなく、町内に滞留できる企画についても検討を進めます。

③ 新たなイベントづくりの取り組み

ワインの試飲やワイン醸造用ぶどう畑（ヴィンヤード）景観を活かした余市町ならではの新たなイベントづくりに向けた取り組みを行います。

Ⅵ．効果的な宣伝活動の促進

① テレビ、新聞、雑誌等における宣伝啓発

従来の宣伝啓発に加え、食・観光イベント情報誌への掲載を積極的に図っていきます。

② ホームページ、ソーシャル・ネットワーキング・サービスなどを活用した宣伝啓発

携帯端末サイトへの情報登載や、インターネット、フェイスブックなどの活用により、観光客が知りたい情報をリアルタイムに得られるよう、効果的な情報提供を図っていきます。

③ 全道的なイベント開催時における宣伝啓発

町民や町民団体、事業者、観光関連団体と観光情報の共有を図り、一体的、効果的な情報発信に努めていきます。

さらに、スポーツ大会などに地元特産品を提供するなどの方法で地域ＰＲに努めていきます。

また、観光応援大使の協力やマスコットキャラクターの他の地域でのイベント参加など、町外でのＰＲにも努めていきます。

第３章　余市町観光振興の計画の推進

１．推進体制

本計画を推進していくためには、その主体となる町民・町民団体、観光協会、観光事業者、経済団体等、行政がともに連携していくことが求められます。それぞれが自主的・積極的な取り組みを進めるとともに、相互に理解・協力していくことが求められています。

① 町民・町民団体の位置付け

町民・町民団体は、それぞれの地域において、郷土とともに歩み、郷土の発展に寄与してきました。まさに地域経済・文化の担い手であり、まちづくりの主役です。郷土への愛着と誇りを持ち、積極的に郷土の魅力を発信することが重要です。観光客に対しては、観光客を温かく迎える親切なおもてなしの心を持ち、観光客との積極的な交流を推進します。

また、観光ルートや体験型観光などは、観光関連団体と連携を図りながら新規の発掘などを行い、祭り・イベントにおいては積極的な参加を行っていきます。

さらには、また訪れてみたいとの機運にさせる環境作りなど、ソフト面を大事にしていくよう努めます。

② 観光協会の位置付け

余市観光協会が法人化されたことにより、余市観光協会を中心として観光事業者や農林水産業、商工業者等が、より緊密な連携のもとで積極的な観光客の誘致、特産品のＰＲを進めています。

また、観光案内所も兼ねた協会事務所やｉセンターにおいて、きめ細やかな観光案内に努めるなど「おもてなし観光」の推進に取り組んでいます。

さらに町内観光ルートの開発や体験型観光を推進し、滞在型観光の定着化に努めるとともに、各産業と連動した観光振興策に取り組みます。

③ 観光事業者の位置付け

観光事業者は、余市町の観光産業の担い手として新たな魅力づくりに取り組むとともに、交通・宿泊・飲食・土産等、観光事業者相互の連携を密にし、観光客へのサービス向上に努めます。

さらに、体験観光の場の提供や観光客の歓迎体制の確立を推し進めていきます。また、増加する外国人観光客に対しては、笑顔を第一に無理に英語などを使わず自然体で接することがおもてなしであることから、観光事業者においても、より積極的な「おもてなし観光」に取り組んでいきます。

④ 経済団体等の位置付け

余市商工会議所をはじめとする経済・産業団体は、観光が様々な産業分野に直接的、間接的に効果をもたらしていることから、行政、観光協会とともに一層連携を強化し取り組みを進めます。

また、地域経済活性化を図るため、観光事業者、観光関連団体をはじめとする経済団体と行政は更に連携し、地元調達率の向上を図るための新たな産業を創出する取り組みを進め、観光消費による町内での経済波及効果を高め地域経済発展に取り組みます。

さらには、観光資源の整理、広域観光推進の体制充実、観光推進体制の確立、祭り・イベントの推進など、各産業・観光関連団体との連携のもと推進していきます。

⑤ 行政の位置付け

行政は、町民・町民団体、観光協会、観光事業者、経済団体等との連携を十分図りながら、余市町総合計画や本計画に基づく総合的な観光振興施策を効率的に実施していきます。

また、社会経済環境の変化に適切に対応していくため、国・道及び周辺市町村等との連携を図り、情報収集や分析、観光振興のための提案等を行いながら、町民・町民団体、観光協会、観光事業者、経済団体等と十分な連携を図り、町内観光基盤の整備や広域的観光推進体制の充実、祭り・イベントの開催推進などの取り組みに努めていきます。

分析資料編

第１章　観光統計

１．全国的な観光現況

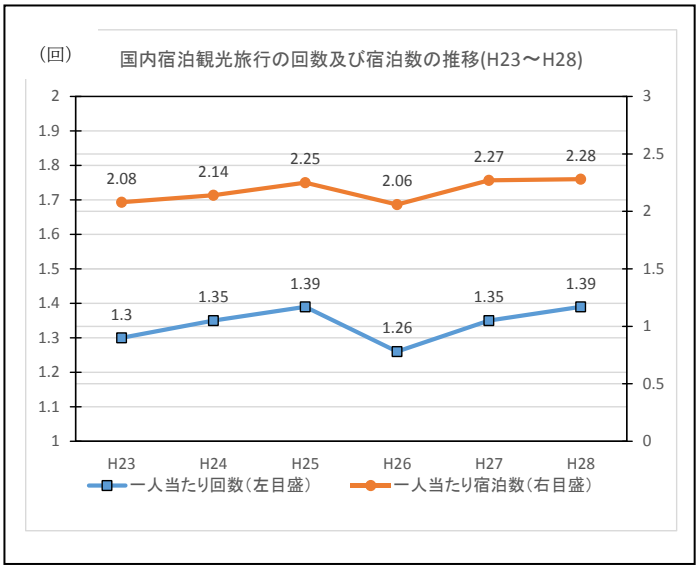
国民の観光旅行の動向

平成２８年の国民１人当たりの国内宿泊観光旅行回数は、１．３９回となり、対前年比で２．９%増となっており、また、国民１人当たりの国内宿泊観光旅行宿泊数は、２．２８泊となり、対前年比で０．４%増となりました。

また、平成２８年の月別で見ると８月が最も多く、２月が最も少なくなりました。景気の持ち直しにより平成２６年度以降増加傾向となっています。

平成２８年の海外旅行者数は、１，７１２万人となりました。前年に比べると約９１万人増加し、対前年比 1.1%増となりました。また、平成２６年には、日本人出国者を訪日外国人が逆転しました。

「旅行・観光消費動向調査」、「宿泊旅行統計調査」（観光庁）



２．北海道の観光現況

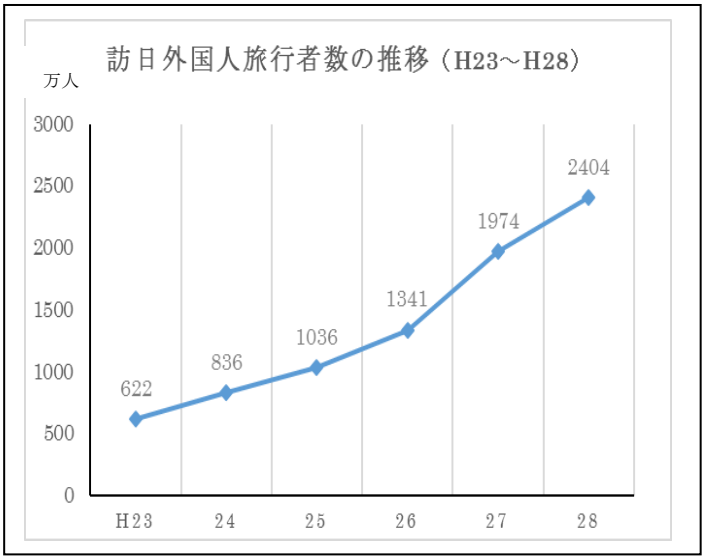
北海道の観光旅行の動向

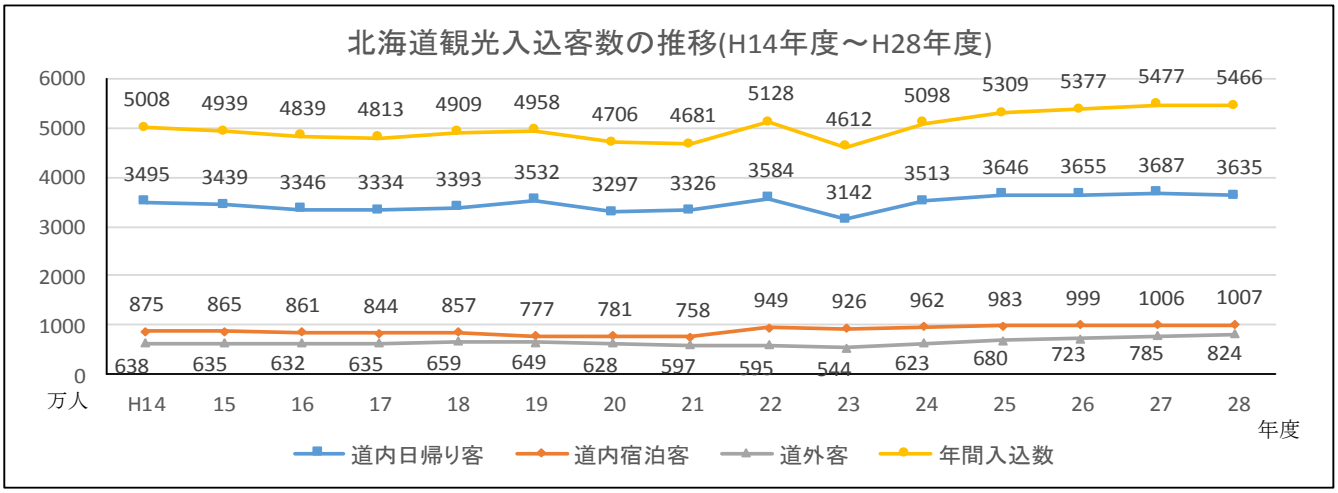
北海道の観光入込客数は、平成１１年度の５，１４９万人をピークに伸び悩んでおり、また、平成２３年度は、東日本大震災の影響もあり大きく落ち込みました。

平成２４年度以降は観光需要が回復基調に転じ、平成２５年以降は景気の回復に伴い、国内外の観光需要が堅調に推移し、平成２７年度は５，４７７万人と過去最高を記録しました。

平成２８年度は８月～９月の台風被害や１２月の記録的大雪による新千歳空港の大規模な欠航が発生したことにより、**平成２７年度比０．２%減の５，４６６万人となっています。**

「北海道観光入込客数調査報告書」（北海道）





３．余市町の観光現況

（１）余市町の観光旅行の動向

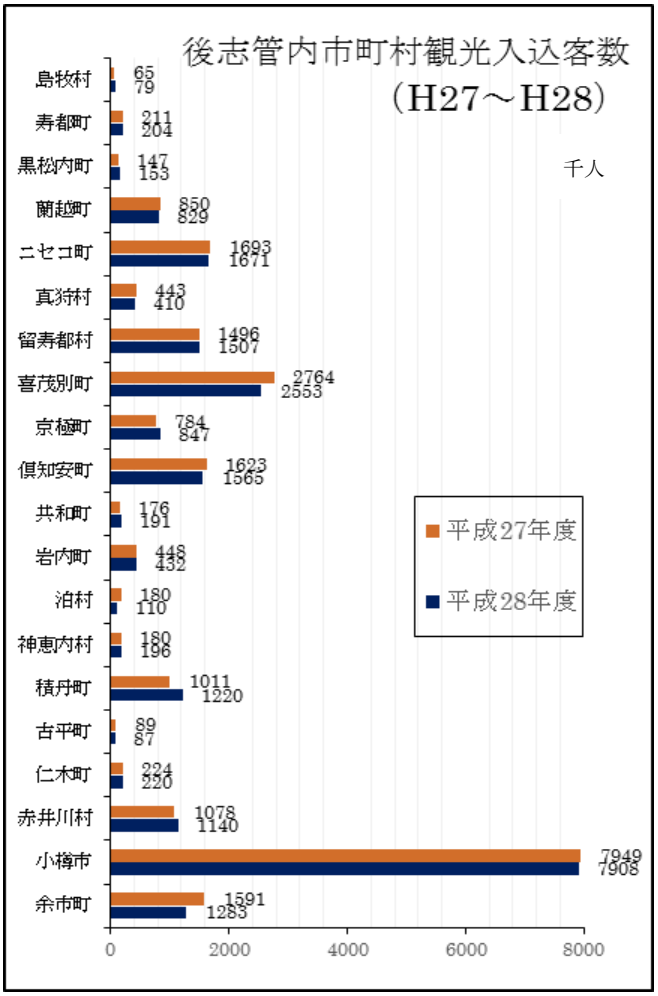
余市町の観光入込客数（実人数）は、平成１７年度の１１３万６千人をピークに減少に転じており、平成２２年度は８１万７千人、その後は、約８０万人台で推移しておりました。

平成２６年度後期ＮＨＫ連続テレビ小説「マッサン」の放送が決定してからは、本町を訪れる観光客が急激に増加し、その影響は、放送終了後の平成２７年度まで続き、観光客入込数は、統計開始以来最多の１５９万１千人を記録しました。平成２８年度は、「マッサン」ブームも落ち着き１２８万３千人となりましたが、現在も例年以上に推移しています。

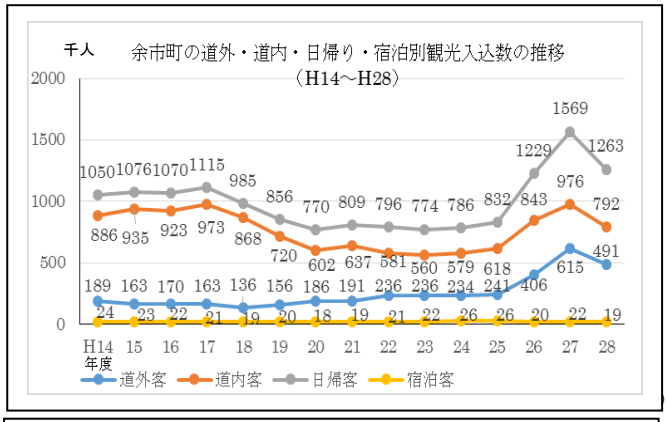
また、観光客入込数をシーズン別に見てみると、年間入込客数の約８２％が夏季（５月～１１月）に集中する状況となっています。

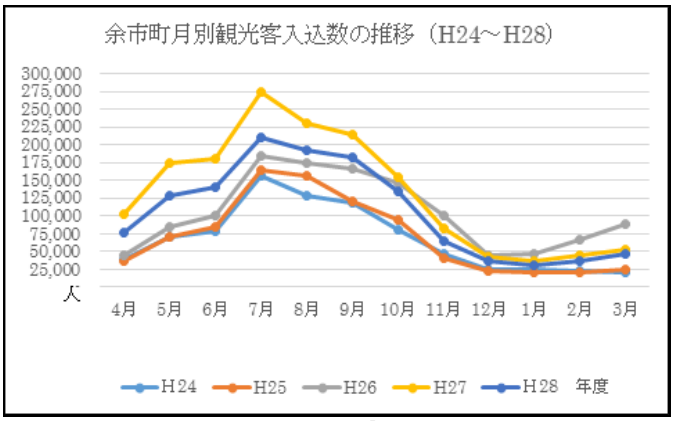
さらに余市町を訪れる外国人旅行者も、５年前と比較して平成２８年度は５倍の７万人と大きく増加しています。

日帰・宿泊別で見てみると、平成２８年度における宿泊客の割合が１．５％となっており、観光客は増加していますが、宿泊は、約２万人で推移していることから、本町の観光は、典型的な日帰り観光となっています。

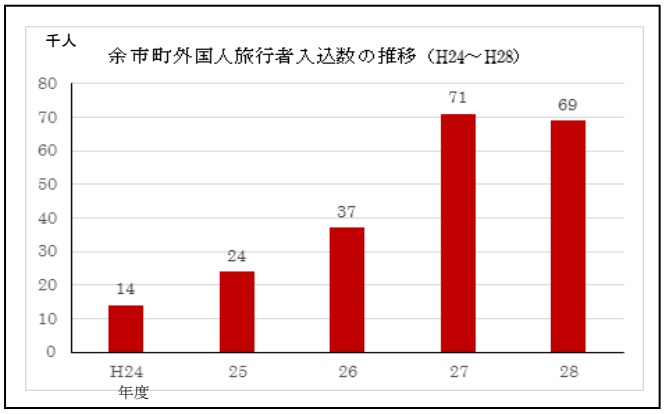


「北海道観光客入込数調査報告書」（北海道）

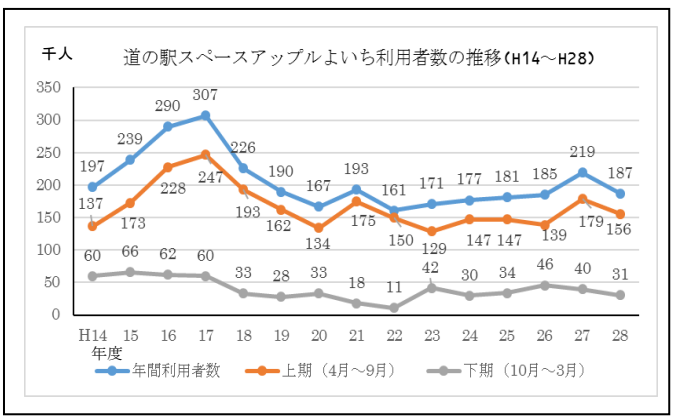




「余市町観光客入込数調査票」（余市町）



「余市町観光客入込数調査票」（余市町）



「余市町観光客入込数調査票」（余市町）

（2）余市町の観光資源別の動向

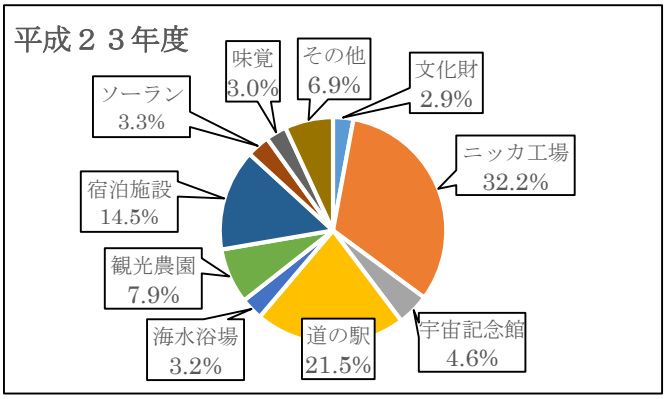
○観光資源別観光客入込み数

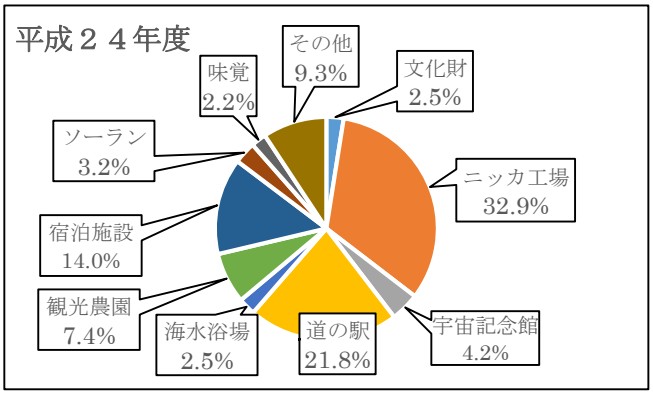
単位:人

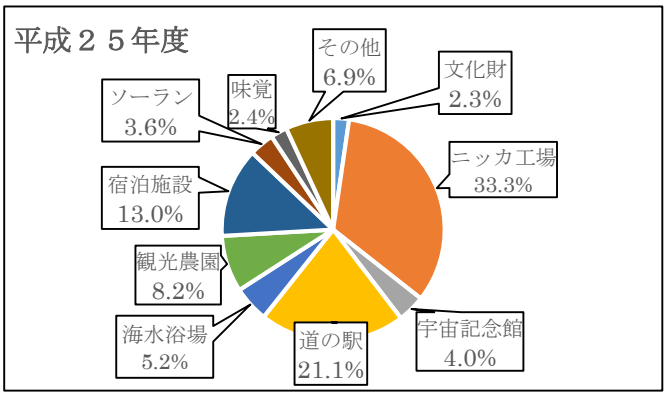
年度	文化財	ニッカ工場	宇宙記念館	道の駅	海水浴場	観光農園	宿泊施設	ソーラン祭り	味覚の祭典	その他	総入込数
23	22,536	256,401	36,576	171,428	25,473	63,025	116,271	25,950	24,064	53,948	795,672
24	19,988	266,785	34,008	177,131	20,659	60,141	113,942	26,100	18,000	75,923	812,677
25	19,456	286,125	34,354	181,116	44,259	70,094	112,110	30,600	21,000	59,451	858,565
26	23,150	554,887	40,321	185,438	39,875	63,125	116,817	33,000	28,000	164,264	1,248,877
27	33,827	863,298	45,437	219,498	24,230	76,962	130,044	37,000	11,000	149,534	1,590,830
28	23,978	654,369	31,632	186,992	29,457	69,417	135,240	18,800	19,600	113,298	1,282,783

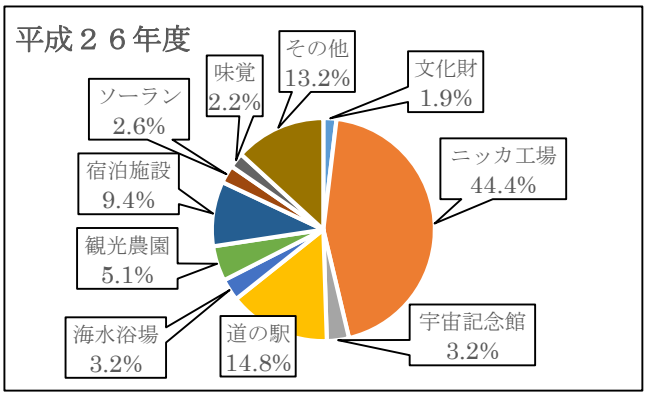
※「文化財」は、フゴッペ洞窟他有料４施設の合計
※「宿泊施設」は、日帰り客を含む
※「その他」は、余市ワイナリー、オチガビワイナリー、エルラプラザ他の合計

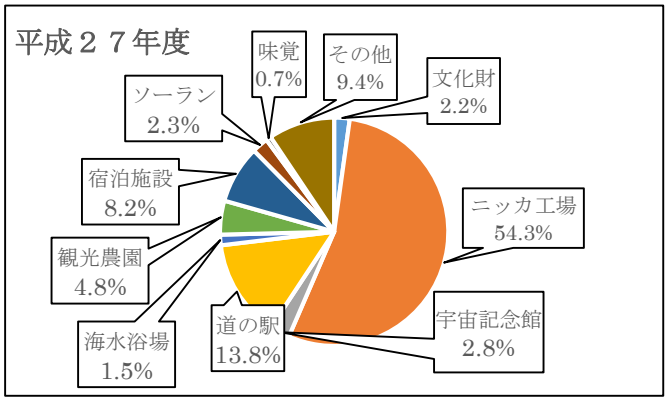
○観光資源別観光客入込み割合

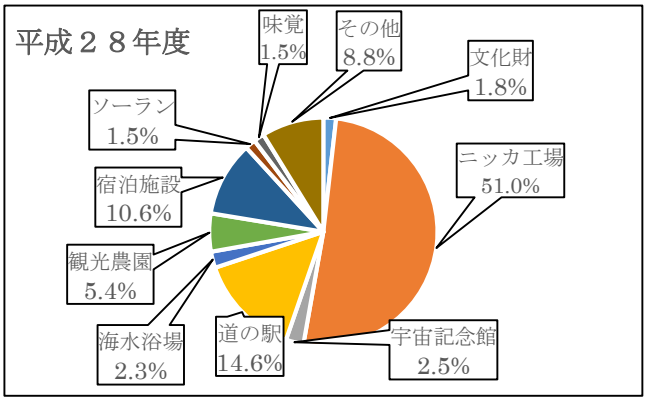












（3）余市町の観光消費額（推計）の推移

余市町の観光消費額について、「北海道観光入込客数調査報告書」のデータ数値を参考として下記のとおり推計しました。

		H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
道内宿泊客　延べ人数／実人数	A	1.94	1.92	1.95	1.93
日帰り道内客単価（四半期平均）	B	3,573	3,646	3,749	3,923
宿泊道内客単価（四半期平均）	C	22,344	22,953	23,461	24,156
〃　　C／A	D	11,517	11,955	12,031	12,516
余市町日帰り観光入込客数（延べ人数）	F	832,391	1,228,885	1,568,719	1,263,417
余市町の宿泊観光入込客数（実人数）	G	26,174	19,992	22,111	19,366
余市町観光入込客数（日帰り延人数+宿泊）		858,565	1,248,877	1,590,830	1,282,783
余市町日帰り観光消費額推計　B×F	H	2,974,133,043	4,480,514,710	5,881,127,531	4,956,384,891
余市町宿泊観光消費額推計　D×G	I	301,445,958	239,004,360	266,017,441	242,384,856
余市町観光消費額推計　H+I		3,275,579,001	4,719,519,070	6,147,144,972	5,198,769,747

① 観光消費額の単価については、北海道経済部観光局で毎年度公表している「北海道観光入込客数調査報告書」の観光消費額単価を参考に計算しました。

ただし、

- 「日帰り客」単価については、日帰り道内客とし、単価の四半期平均の金額をそのまま適用
- 「宿泊客」単価は、宿泊道内客とし、単価の四半期平均の金額を平均泊数で除して適用

② 余市町日帰り観光入込客数は延べ人数で計算しています。

第２章　余市町の観光資源

１．余市町の観光資源

（１）観光資源の概要

余市町は北海道積丹半島の基部に位置し、北は日本海に面し、東は小樽市、南は仁木町・赤井川村、西は古平町と接しています。

気候は、日本海を北上する対馬海流（暖流）の影響により、道内では比較的温暖な気候となっています。日中が高温で夜間は冷涼という１日の寒暖の差が大きい特徴があり、これが果樹の栽培に適した気候条件となっています。降水量・降雪量は道内のなかでは比較的多いほうとなっています。

町内には余市川・ヌッチ川・登川・畚部川等が縦断しており、その流域に市街地が形成されております。また、周囲は三方を緩やかな丘陵に囲まれており、市街地周辺の地味肥沃は土壌に、果樹園・野菜畑を中心とした農地が広がっています。

北北東及び東北東に延びる海岸線は１７ｋｍにも及び、沿岸には地方港湾の余市港と４つの地区からなる余市漁港があり、温暖な気候と相まって古くから格好の漁場となっています。

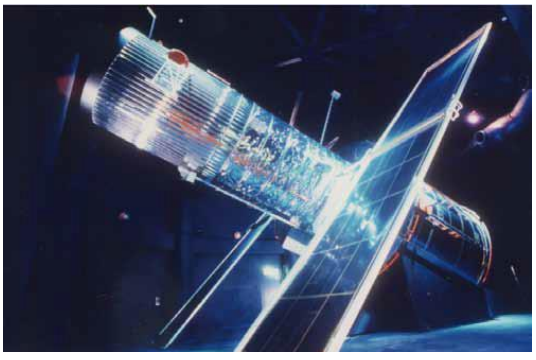
また、道都札幌市から６０ｋｍ、新千歳空港から１００ｋｍの距離にあり、さらにニセコ積丹小樽海岸国定公園の一部にもなっており、美しい景観に恵まれた海岸線や河川流域は観光価値も高く、さらには遺跡等の文化財など数多くの資源があります。

（2）主な観光資源及び施設の立地状況

分類	名称	説明文
景　勝	円山公園	大正時代から花見の名所として親しまれてきた公園で、現在、ガラス屋根のピラミッド型施設を中心に、遊具広場や多目的広場が整備され、四季を通じてさまざまなレクリェーションを楽しむことができます。施設内には様々な植物が楽しめます。展望台からは、雄大な日本海を背景に余市町全景が見渡せます。
	ローソク岩	豊浜町の沖合約５００ｍの海上に４５ｍを越える高さでそそり立ちます。ローソク岩はこれまで何度か崩落が繰り返されたようで、昭和１０年代に大きな崩落があり、最近では平成 28 年にも小規模の崩落が発生しています。神々の岩としてあがめられたローソク岩にはいくつかの伝説が残っています。ローソク岩周辺はかつて千石場所といわれたニシン漁場のなかでも特に良好な漁場でした。
	えびす・大黒岩	白岩町の沖合にある奇岩で、夫婦岩とも呼ばれています。
	シリパ岬	余市市街の西側に突き出している岬で、夕日が落ちるシリパ岬は別名サンセットダイヤモンドヘッドとも言われ、余市町のシンボルとして親しまれています。
	余市川堤防沿いの桜並木	ニッカウヰスキー余市蒸溜所に隣接した堤防沿いの桜並木は昭和１０年に植えられたもので、5月上旬にはソメイヨシノの花が咲きこぼれ、散策する人たちの目を楽しませています。
レクリェーション地	余市あゆ場公園パークゴルフ場	全３６ホールのパークゴルフ場で、近くには魚道施設等があり、秋にはサケの遡上を見ることができます。
	浜中モイレ海水浴場	余市町のシンボルでもあるシリパ岬とモイレ山に囲まれた余市湾の中にあり、沖には消波ブロックがあるため波・風が比較的穏やかなことから大変人気があり、また、市街地から近いことなどから利便性のよい海水浴場となっています。
	観光果樹園	広々と連なる余市の果樹園では、初夏のイチゴから始まり、サクランボ、プラム、モモ、ブドウ、リンゴといった季節折々の果物が次々と収穫されます。余市の果樹栽培は、アメリカ産のリンゴの苗木から始まりました。日本で初めてリンゴを実らせた余市も、いまでは果樹栽培の広がりを見せ、フルーツ王国の名にふさわしい実績をあげています。
	余市フィッシャリーナ	漁業機能空間、ふれあい空間、釣り空間、漁港利用調整空間があり、海洋レクリェーションの活動拠点となっています。
郷土芸能	北海ソーラン太鼓	大勢の漁夫たちに支えられたニシン漁撈の勇壮な漁場の一連作業を、太鼓によって情緒豊かに表現します。
	余市町正調ソーラン沖揚音頭	余市町はソーラン節の発祥の地として、ニシン漁とともに発展してきた町です。このニシン漁撈の拍手をとるために唄われた沖揚げ音頭は、北海の怒涛と闘う漁夫の汗からにじみ出た労働歌で、寒風と波しぶき、そこに踊る銀鱗、北国に生きる者のみが知る独特の力強さをもって現在に唄い継がれています。
イベント	北海ソーラン祭り	毎年７月の第１土・日曜日、まちを挙げてのこのお祭りは、毎年多くの観光客で賑わい、浴衣姿の町民がソーラン踊りを踊ります。また、ソーランふれあい広場や花火大会など多彩な催しが２日間にわたって行われます。
	味覚の祭典	秋には食欲・スポーツの季節にふさわしく「味覚の祭典・余市大好きフェスティバル」が、旬の海の幸・山の幸・もぎたてフルーツが格安で提供します。
	味覚マラソン	味覚の祭典と同じ日に開催され、全国から１０００人以上の市民ランナーが健脚を競い、秋空の下、街は一気に盛り上がりを見せます。

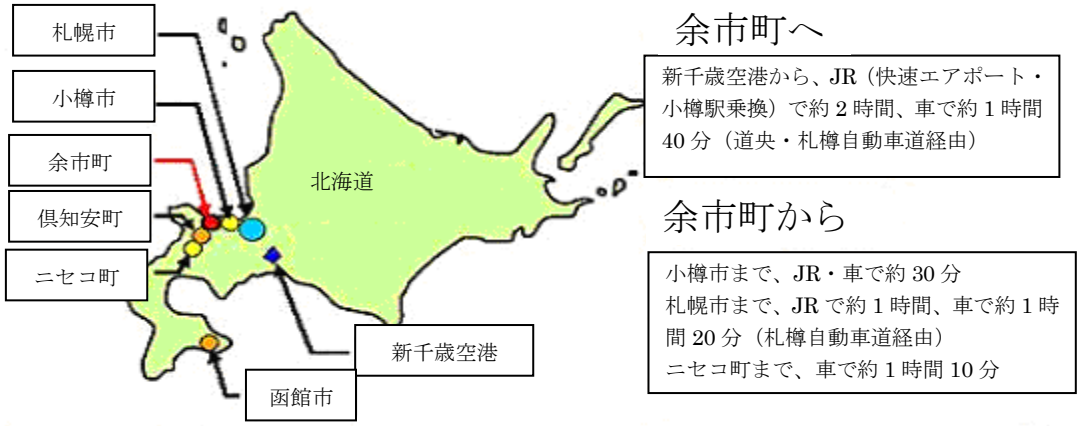
分類	名称	説明文
文化財	旧下ヨイチ運上家	運上家は江戸時代、松前藩が行っていたアイヌ民族との交易を請け負った商人が経営の拠点とした建物です。旧下ヨイチ運上家は、唯一現存する貴重な遺構として国指定史跡重要文化財となり、嘉永６年（１８５３年）に改築した当時の古図面を基に復元されています。
	フゴッペ洞窟	昭和２５年、札幌の考古学少年によって発見された遺跡で、発掘調査の結果、洞窟内には続縄文時代後半（約１６００～１３００年前）の古代の人が彫った岩壁彫刻が数多く残っているほか、土器、骨角器、炉跡などもあり、貴重な洞窟遺跡として国指定史跡になっています。
	旧余市福原漁場	かつてのニシン漁の栄華がしのばれる歴史的建造物として復元整備されたこの施設は、主屋、文書庫、米味噌蔵、網蔵などがまとまって残っており、国指定史跡になっています。
	大谷地貝塚	日本海側に残る縄文時代中期から後期（約５０００～３０００年前）の数少ない貝塚として史跡になった大谷地貝塚は、同時にそこから出土した土器に余市式の名を冠することとなった点でも重要な遺跡です。国指定史跡になっています。
	西崎山環状列石	余市町の市街と日本海が一望できる、標高７０mの西崎山の丘上に、長径 17m、短径 12mの楕円形に大小１００個の自然石群が環状に並べられています。小さなサークルのひとつが墓穴とも考えられ、環状列石と推定されており、北海道指定文化財になっています。
	天内山遺跡出土の遺物	天内山は町内入舟町にあった標高２０mほどの頂上が平坦な低い山です。古くから遺跡として知られており、ここから出土された遺物は北海道指定文化財となっています。
文化施設	余市水産博物館	北海道百年地域記念事業の一環として建設されて、昭和４４年６月にオープンしました。地域の基礎をつくったニシン漁などの漁撈具や生活用品など、郷土資料を中心に展示しています。
	歴史民族資料館	町内には６０以上の遺跡が確認されています。なかでも余市川河口周辺にある大川遺跡、入舟遺跡、天内山遺跡や、町東部の大谷地貝塚（国指定史跡）、町西部の沢町遺跡からたくさんの遺物が出土しました。昭和５４年６月に開館したこの施設では、出土した土器や鉄製品などの考古資料やアイヌ文化資料などが展示されています。
拠点施設	ニッカウヰスキー余市蒸溜所	創業者：竹鶴政孝氏は１９３４年（昭和９年）、自分の理想とするウイスキーをつくるため、りんごやぶどうの産地であり、澄んだ空気と夏でもあまり気温の上がらない、そのうえピート地帯でもある余市町をえらび操業を開始しました。工場内にあるウイスキー博物館では、ニッカウヰスキーの創業から現在までの商品や、琥珀色の夢を追い続けた政孝とリタ婦人の軌跡を紹介。また、二人が暮らした邸宅が復元、工場内に移築されています。ニッカウヰスキー北海道工場は国登録有形文化財・北海道遺産に指定されています。
	余市ワイナリー	２０１１年8月にニューオープンした余市ワイナリーは、全道一の収穫量を誇るワインぶどうを地元で醸して作られた余市ワインをはじめ、レストラン、ギャラリー、ショップを併設し、食とアートを楽しむことができます。
	OcciGabi（オチガビ）	2013 年設立。自社ワイナリーの美しい景観を眺めながら食事が出来るレストランで、旬の食材を使ったフレンチとワインを味わうことができます。
	道の駅 （スペース・アップルよいち）	スペース・アップルよいちは、余市宇宙記念館、ニッカウヰスキー余市蒸溜所に隣接しており、生産者直売所も併設している道の駅です。
	余市農道離着陸場 （アップルポート余市）	広大な滑走路を有する農道空港では、小型飛行機、スカイスポーツの利用の他、本町の特産品の即売会や体験飛行、各種イベントなど多目的に利用されています。　農道空港から望むシリパ岬と市街地は絶景です。

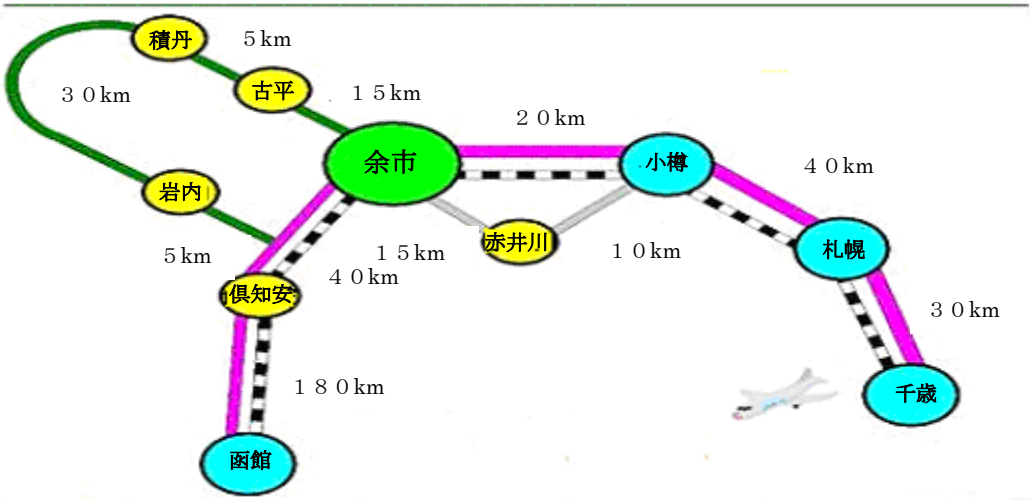
分類	名称	説明文
拠点施設	エルラプラザ	エルラプラザは、JR 余市駅に併設した施設で、主に余市町の特産品を販売宣伝するため作られた物産館です。２階では、余市町出身の五輪出場ジャンプ選手他のスキー用具などが展示されています。
科学施設	余市宇宙記念館	１９９２年、日本人科学者として初の宇宙飛行士となった毛利衛さんの功績を伝えるため、１９９８年４月、余市宇宙記念館「スペース童夢」がオープン。宇宙の神秘や宇宙開発の最新情報が学べる宇宙ステーションです。また、「おもしろ宇宙教室」や天体観測会などを通して主に子どもたちを対象に宇宙や科学に関する学習・体験活動も行われています。
特産品	水　産　物	えび、たら、かれい、いか、鮎、鮭　他
	水産加工品	たらこ、数の子、身欠にしん、各種珍味類
	農　産　物	りんご、なし、ぶどう、さくらんぼ、トマト、いちご、プラム、メロン、ブルーベリー、もも、プルーン、コメ　他
	酒　　造	ウイスキー、ワイン
	菓　　子	りんごもなか、ウイスキー最中、アップルパイ
	農産加工品	りんごのほっぺ（果汁 100%ジュース）、 ぶどうジュース、トマトジュース
温泉	町内一円	余市には、市街地や果樹園の中、国道沿いにと泉質の違う温泉がたくさんあります。かくれた名湯に出会う楽しみもまた格別です。

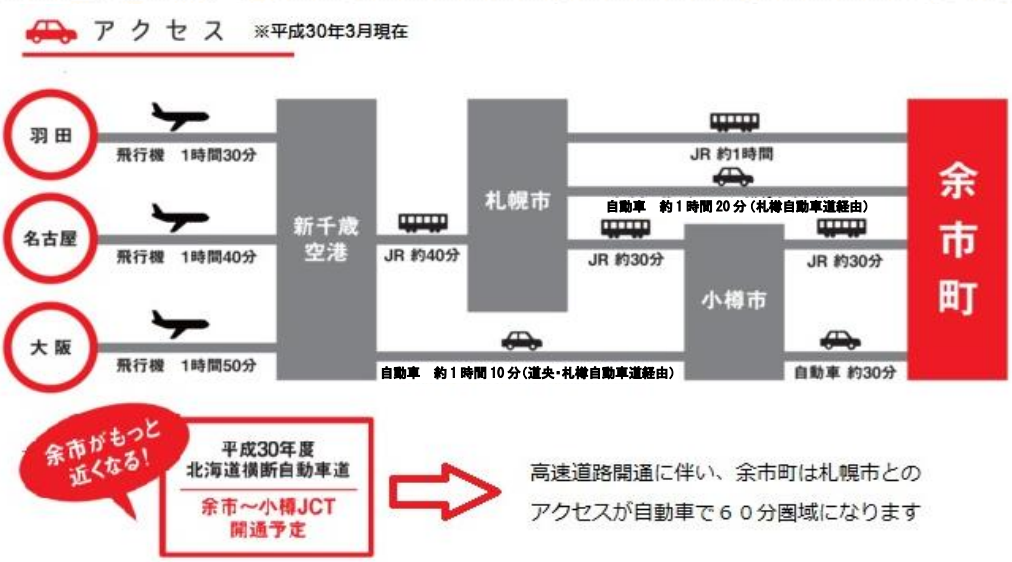


2．立地環境・交通アクセス
（1）余市町へのアクセス

余市町は北海道積丹半島の基部に位置し、道都札幌市から車で約１時間２０分、道内有数の観光地である小樽市から約３０分、空の玄関口である新千歳空港から約１時間４０分となっており、地の利に恵まれています。公共交通のアクセスはＪＲ、バスが主な手段となっております。







第３章　第４次余市町総合計画≪観光振興≫

１．余市町観光振興の基本目標

滞在型観光の定着化に向けた観光コースの開発に努めます

近年の観光ニーズに対応した参加体験型観光の推進に努めます

北後志観光連絡協議会・後志観光連盟との連携強化のもと、広域的な観光を推進します

余市観光協会との緊密な連携を図り、観光推進体制の確立に努めます

地域の個性を生かした魅力ある観光地づくりに努めます

インターネットによる観光情報の発信、活用に努めます

２．余市町観光振興の主要施策の体系

Ⅰ．町内観光基盤の整備

① 町内観光ルートの整備

② 参加体験型観光の推進

③ 各産業と連動した観光振興

Ⅱ．広域観光における推進

広域的観光推進体制の充実

Ⅲ．観光推進体制の確立

観光関連団体との連携強化

Ⅳ．祭り・イベントの開催

① 北海ソーラン祭りにおける参加体験型イベントの拡充

② 味覚の祭典の実施

Ⅴ．自然に恵まれた本町の優位性を生かした効果的な宣伝活動の促進

① テレビ、新聞、雑誌等における宣伝啓発

② ホームページにおける宣伝啓発

③ 全道的なイベント開催時における参加ならびに宣伝啓発

その他資料編

１．　余市町観光振興計画の策定体制

○ 余市町観光振興審議会委員名簿

平成３０年１月９日現在

所属団体名	職　名	氏　名
余市町教育委員会	教育委員	久保　　浩
北海道旅客鉄道㈱余市駅	駅　長	渡辺　幸雄
余市観光協会	副会長	越智　裕人
余市観光協会	副会長	笹浪　淳史
余市商工会議所	観光飲食部　部会長	高野　清隆
余市郡漁業協同組合	参　事	小浜　高広
余市町農業協同組合	営農販売部営農課課長	野村　裕治
余市水産加工業協同組合	参　事	越智　直美
余市金融協会	北海道信用金庫余市支店長	今村　　太
北海道中央バス㈱余市営業所	所　長	濱田　隆文

(順不同・敬称略)

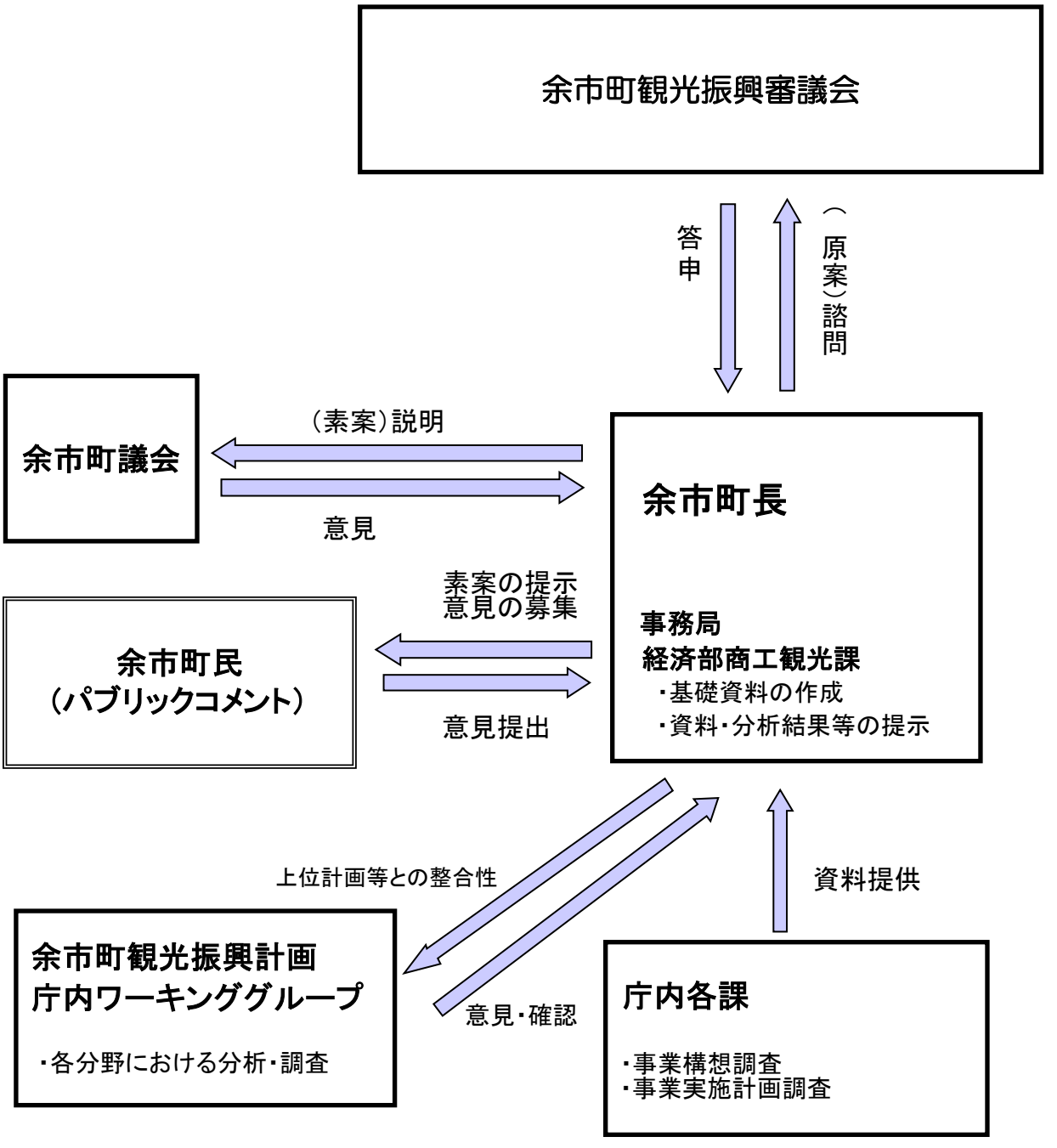
○ 余市町観光振興計画庁内ワーキンググループ名簿

平成２９年９月１日現在

所属部署	職　名	氏　名	備　考
経済部商工観光課	課長	阿部　弘亨	座長
経済部農林水産課	係長	佐々木孝太	産業
経済部商工観光課	係長	山本　芳和	観光
建設水道部建設課	係長	清水　光弘	建設
教育委員会社会教育課	主幹	桜井　　仁	教育
総務部企画政策課（町長選考）	主幹	北島　貴光	総合計画
建設水道部まちづくり計画課（町長選考）	主任技師	千葉　雅樹	高速道路
総務部地域協働推進課（町長選考）	主幹	古山　尚志	自治大卒

(順不同・敬称略)

○　余市町観光振興計画の策定体系図



○余市町観光振興計画策定経過について

◆平成 29 年 03 月 28 日　　平成２８年度第１回余市町観光振興審議会開催

◆平成 29 年 06 月 01 日　　余市町議会産業建設常任委員会へ策定スケジュールの説明

◆平成 29 年 08 月 31 日　　第１回余市町観光振興計画庁内ワーキンググループ会議開催

◆平成 29 年 09 月 06 日　　平成２９年度第１回余市町観光振興審議会開催

◆平成 29 年 11 月 24 日　　余市町議会産業建設常任委員会での素案審議

◆平成 29 年 11 月 30 日　　余市町パブリックコメント手続開始

◆平成 29 年 12 月 29 日　　余市町パブリックコメント手続終了

◆平成 30 年 01 月 18 日　　平成２９年度第２回余市町観光振興審議会開催

◆平成 30 年 02 月 02 日　　平成２９年度第３回余市町観光振興審議会開催(諮問)
余市町観光振興計画(原案)を答申

◆平成 30 年 02 月 16 日　　余市町議会産業建設常任委員会へ計画原案の説明

よいち町マスコットキャラクター

ソーラン武士!!

余市町観光振興計画

「よいち魅力発信」

発 行 日　　平成３０年３月
発　　行　　余 市 町

〒046-8546　北海道余市郡余市町朝日町２６番地
TEL　0135-21-2125　FAX　0135-21-2144
（経済部　商工観光課）